日本海ブロックにおける特筆すべき情報（道府県水産試験場等）　平成27年4月～6月

機関名：**（地独）青森県産業技術センター水産総合研究所**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	●青森県日本海沿岸の1月から6月までの累積漁獲量をみると、過去5年平均と比較してスルメイカが不漁で、約30%に留まった。 ●一方、ブリ、ヤリイカの累積漁獲量は、同比182%、154%と好漁であった。	●対馬暖流域の最高水温は各層とも平年並みからかなり高めとなった。水塊深度はやや深め、暖流の流幅はやや広めからかなり広めであった。 ●陸奥湾の水温は3月以降、やや高めからはなはだ高めが続いている。	特になし	特になし

機関名：**秋田県水産振興センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	●男鹿南部の大型定置網におけるブリの漁獲量が過去5年間の1.8倍と多かった。また、マダイの漁獲のピークが5月下旬と、過去5年間の中で最も早かった。	●5～6月の表層水温が「やや高い」～「はなはだ高い」水温であった。	特になし	特になし

機関名：**山形県水産試験場**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	●5月にブリ類が定置網で多獲された。（336トン、平年比494%）	●6月2日～16日に県南～中部の漁港内で赤潮が小規模ながら発生した。また、6月15日～16日に一つの港で、緑潮（テトラセルミス）が広範囲に認められた。 ●沿岸水温：4月以降100～300m帯で「やや高い」もしくは「かなり高い」状況であった。	特になし	特になし

機関名：**新潟県水産海洋研究所**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	●5月、6月に県北部海域で、ヒラメが大量漁獲（5月平年比173%、6月平年比　176%）され、市場の平均価格が500円/kg前後に下落した。 ●定置網で小型のブリが好漁。主要定置網における4～5月の漁獲量は、イナダ銘柄（体重1.7kg未満）が426トンで過去5年平均の507%、小ブリ銘柄（体重1.7～4.0kg）が193トンで過去5年平均の298%。両銘柄とも4～5月としては過去30年で最高の漁獲量となった。	●6月上旬、寺泊沖から山北沖にかけて、小さなクラゲ状のものが網にかかって操業に支障を来している旨の漁業者情報があった。当県調査船で調査したところ多数のサルパを確認し原因と推定した。なお、7月に入るとサルパは少なくなり、操業への支障はなくなった。	特になし	特になし

機関名：**富山県農林水産総合技術センター水産研究所**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	特になし	●5月上旬の表層、6月上旬の表層から10m層が“はなはだ高く”、6月上旬の20～50m層も“かなり高い”水温を示した。	特になし	特になし

機関名：**石川県水産総合センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	特になし	特になし	特になし	特になし

機関名：**福井県水産試験場**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	●スルメイカの新子が敦賀市場へ多く水揚げ（例年であれば2～3月頃）。 ●サゴシ(FL 50cm)の大量漁獲（県内の定置網：多い日で約160トン）、300円/キロ	●福井市沖から越前町沖にかけて、白い浮遊物が大量に存在。 ●福井沖水深600m付近に、ホンダワラ類が大量に堆積。	特になし	特になし

機関名：**京都府農林水産技術センター海洋センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	●定置網でマアジ好調（4～5月の漁獲量は平年の2.8倍、1歳魚主体）	●京都府沿岸の表層水温は高め（4月やや高め、5･6月かなり高め）	特になし	特になし

機関名：**兵庫県農林水産技術センター但馬水産技術センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	●底びき網漁業者より、5月を中心に流れ藻の入網が大変多かったとの情報を得ている。（分布、種名等は不明）	特になし	特になし	特になし

機関名：**鳥取県水産試験場**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	【境港まき網】 ○マイワシ 水揚量（4～6月）は、17,496tと前年を大きく上回った（2014年820t）。例年6月は漁場形成がなくなり漁獲が大きく減少するが、6月の水揚量は、10,470tと好漁であり、6月単月の水揚量が1万トンを超えるのは2000年以降初めて。 ○マアジ 水揚量は（4～5月）は、6,123tと順調であったが、6月の水揚量は、220tと激減した。6月単月の水揚量が300tを下回るのは1990以降初めて。 ○クロマグロ（まぐろ銘柄） 5月29日に初水揚げがあり、体重30kg及び60～70kgサイズ主体に6月末までの水揚量は、872t（2012年225t、2013年740t、2014年1,238t）と好漁ペースで水揚げされた。	特になし	特になし	特になし

機関名：**鳥取県栽培漁業センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	特になし	●H26年秋以降、美保湾でヒトデ（マヒトデ・スナヒトデ・モミジガイ等）が大量発生し（H27年4月に約1,200トンと推定）、小型底網漁などに障害を与えている。ヒトデの大量発生によりバイなど漁業資源の減少も懸念される状況。	特になし	特になし

機関名：**島根県水産技術センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	●中・小型まき網における4～6月の漁獲量は、サバ類では平年の1.9倍、マイワシでは平年の3.4倍の水揚げ。一方、カタクチイワシは平年の25%と低調。 ●サワラ類の6月の漁獲量は、定置網で平年の9.3倍、釣りで平年の4.3倍の水揚げとなり、2005年以降で最高の水揚げであった。 平年：過去10年平均	●E130°以東の海域において、大量の漂流海藻（ホンダワラ類が主体）が確認された。G.W後、漂流していた海藻は沈み、底びき網操業時に大量入網が見られ、操業に影響があった。 ●島根半島の延縄において、漁具に泥の塊様ものが付着する現象が見られた。検鏡すると非常に細い繊維状の物質が絡まり合っており、これに泥粒子や珪藻が付着して団塊となっている。 ●平成20年調査開始以来、初めて有害植物プランクトンの一種であるKarenia digitataが確認された。	特になし	●島根半島の定置網において、南方系の「ナガタチカマス」が漁獲された。

機関名：**山口県水産研究センター**

年月	水産資源関係	水産海洋・漁場保全関係	水産増養殖関係	その他（水産利用加工、水産経済、災害等）
平成27年4月～6月	●6月にケンサキイカの好漁があった（代表2地区イカ釣り漁獲量25トン、前年比3.3倍、平年比2.0倍）。	●平成27年6月3日から24日にかけ、日本海沿岸域においてカレニアディジータ（類似種）による赤潮が発生した。被害等は不明。	特になし	●平成27年4月頃から日本海沿岸域において天然アワビのへい死が続いている（大部分は漁港内での蓄養中）。調査しているが、今のところへい死原因は特定できていない。